第 53 回　日本脈管学会総会が

2012 年 10 月 11 日(木)から 10 月 13 日(土)に

東京ステーションコンファレンスにて開催されます。

当院からは血管外科　医長　今井　崇裕　医師が

学術発表しますので、紹介いたします。

第53回 日本脈管学会総会

The 53rd Annual Meeting of Japanese College of Angiology

2012年10月11日(木)▶13日(土)

会　場　東京ステーションコンファレンス
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1丁目7-12 サピアタワー
代表電話：03-6888-8080

会　長　栗林　幸夫（慶應義塾大学医学部放射線科学教室　教授）

事務局長　橋本　統（慶應義塾大学医学部放射線科学　放射線診断科）

「当院における急性動脈閉塞症患者の検討」

今井崇裕

西の京病院　血管外科

【キーワード】急性四肢動脈閉塞症 Acute Arterial Obstruction，血栓塞栓症 Thromboembolectomy

【目的】当院で経験した急性四肢動脈閉塞症の症例について治療成績向上のため問題点を検討した．

【対象および方法】2009 年 6 月から 2012 年 5 月の 3 年間に当院で外科治療を行った四肢の急性動脈閉塞症患者は 10 例であった．年齢は 73 歳から 94 歳で平均年齢 81.8 歳であり，性別は男性 8 例，女性 2 例であった．平均入院日数は 54.3 日であった．その他原因，閉塞部位，血行再建法，救肢率，死亡率について検討した．

【結果】塞栓症は 2 例(20%，男女比 1:1，平均年齢 76.5 歳)．平均入院日数は 56 日．原因は全て心原性の塞栓で，ともに心房細動を有していた．そのうち 1 例は上肢塞栓であった．一方，血栓症は 8 例(80%，男女比 7:1，平均年齢 83.1 歳)．平均入院日数は 53.9 日．原因は全て動脈硬化によるものあった．塞栓症は全て血行再建手術が施行され，血栓塞栓摘除のみで，バイパス術などの付加手術は不要であった．肢切断 0 例(0%)，死亡 0 例(0%)であった．一方，血栓症は全て血行再建手術が施行されたが，血栓塞栓摘除のみ施行された例が 6 例(75%)で，血栓塞栓摘除後にバイパスを追加した例が 2 例(25%)であった．3 例(37.5%)が血行再建手術後に肢切断を余儀なくされた．死亡は 0 例(0%)であった．

【結語】 当院における過去 3 年間の急性四肢動脈閉塞症の症例について検討を行った．血栓症は塞栓症と比べ救肢率なども不良で，付加手術が必要なことが多いことからも，血栓症の症例では術中血管造影による評価をして適切な初期治療を行うことが重要であると思われた．